

難となり、生活の利便性の低下を招くこととなります。

こうした中で、東・西駅を中心に医療・福祉等の都市機能を適正に配置誘導し、両駅間のJR、バス等の交通ネットワークを効果的に活用することにより人口を「街なか」に取り戻し、市全体として、利便性が高く効率的で暮らしやすいまちの実現を目指そうと「舞鶴版コンパクトシティ」に向けた取り組みが進んでいます。

こうした「ビジネス環境」をしっかりと活かし、「ひと」を呼び込み、「しごと」を増やし、適正な「利益」を生み出す仕組みをつくり、まちに活力と潤いを与えたいと考えています。いずれにしましても、利便性が高く効率的で暮らしやすい「まちづくり」のため、街なか再生されますようお願いいたします。

4. 京都舞鶴港の更なる機能整備

港の管理者である京都府のハード・ソフト一体となった取り組みが、港勢の進展となって表れています。また、京都府知事の英断により、この4月、本市に府港湾局が開設され港湾行政の一元化が強化されたことで、さらなる港のにぎわいが期待できます。

その一方で、コンテナ取扱量やクルーズ客船の寄港回数は予想を超えた勢いで伸びてきており、コンテナについては、背後圏の企業活動の拡大によって今後新たな貨物の発生が予想されるなど、さらなる貨物量の増加が見込まれる中、国際ふ頭のコンテナの取り扱い能力が限界に近づき、今後バルク貨物(注2)の取り扱いが進めば、さらに混雑が進むのではないかと懸念しています。

また、クルーズ客船の寄港増加に向けて整備が進む第2ふ頭においても、現在は日韓露国際フェリーが就航しているほか、中古車やバルク貨物が取り扱われており、旅客と貨物が混在している状況にあります。

このことから、港湾機能の整備促進と併せて、京都

(注2) バルク貨物：ばら積みの穀物や、塩、石炭などの貨物

舞鶴港の一体的運用を図るためにも、国際ふ頭と西舞鶴道路を結ぶ「臨港道路上安久線」や、西港と国際ふ頭を結ぶ「臨港道路和田下福井線」などの臨港道路が出来ただけ早く完成するようお願いします。

5. 企業に「稼ぐ力」

中小企業の「稼ぐ力」を強化するためには、イノベーションの加速が必要であり、単なる経営改善にとどまらず、新技術や新機軸による新たなビジネスモデルを創出させなくてはなりません。

このことから、当所では、販売促進や顧客獲得、ICT(注3)による会計管理などに役立つ「各種セミナー」をはじめ、消費税転嫁対策事業として「個別相談会」などの様々な取り組みに加え、創業者の発掘や増加を図るために「創業塾」や創業後の「フォローアップ」を行っています。

また、円滑な企業経営に欠かせない「資金調達」については、国・府・市の融資制度の更なる充実を求めています。

地方の中小企業が疲弊している中で、「稼ぐ力」を高めようと頑張る意欲ある商工業者に対して、その事業活動が安定し持続的成長に繋がるよう重点的支援をお願いします。

また、私たち商工業者にとって、電力は「産業の大動脈」であり、これ無くしての事業運営は不可能です。

経済再生を果たす大きな基盤の一つが、暮らしと産業を支える良質なエネルギーの安定供給であることは言うまでもなく、「安全」「安定供給」「経済性」「環境保全」を考えた多様な電源構成(ベスト・ミックス)による、バランスのとれたエネルギー政策が正しく実行されるようお願いします。

(注3) ICT：情報通信に関する技術の総称

11月21日の要望 訪問概要

舞鶴市は多々見市長と面談 京都府へは中丹広域振興局を訪問

11月21日に行った、舞鶴商工会議所の「平成30年度商工施策」に関する要望については、午後1時30分に舞鶴市役所を、小西会頭はじめ、今安副会頭、一盛副会頭、それに瀬川専務理事、西山常務理事が訪問しました。

会議室で多々見舞鶴市長ら市の幹部と面談。まず、会頭から市長に対して、要望書を手渡すとともに、「行政とともに、元気なまちづくりに取り組んでいきたい」と伝えました。市長は「思いは一緒です。今後も新しいことに挑戦する事業所を応援したい」と話されるなど、理解を示されました。

一方、京都府中丹広域振興局には、午後3時、瀬川専務理事と西山常務理事が訪問。野村局長らと面

会し、要望内容について詳しく説明した上で、要望書を手渡しました。これに対して、野村局長は「商工施策について、さらに具体的な戦略を考え、一緒に実現しましょう」と話されました。

なお、舞鶴商工会議所としては、部会活動を通じ、その実現や前進に向けて取り組みます。



京都府中丹広域振興局へ要望